

「Government 2.0」に向けた千葉市の取り組み ちばレポ ～これからのまちづくりにおける行政、市民の役割～

千葉市市民局 局長 金親芳彦

1) Government 2.0

昨今、人口減少、少子・高齢社会の進展に伴う税収減少、社会保障費の増加、市民ニーズの高度化、多様化、そして地方分権の進展等、行政を取り巻く環境は大きく変化しています。そして世界では、Government 2.0という言葉に象徴される、オープンガバメントの動きが加速しつつあります。

この新しい時代の動きの中、ICTを使い、行政が保有していた情報を市民と共有し、政策決定や公共サービスの提供に市民が参画する、市民と行政のフラットな関係を作ること、市民が納得する行政サービスの提供と、行政そのものの効率化が達成されるものと考えます。

2) ちばレポ

千葉市では、ICTを活用した、市民がまちづくりに参画するための新たな仕組みづくりへの挑戦として、平成25年7月から「ちば市民協働レポート実証実験（愛称「ちばレポ」）」を開始しました。地域における様々な課題について、スマートフォン等により、市民から写真及び位置情報のレポートをしてもらい、市民と行政が情報を共有し、将来的には共に課題解決にあたる、協働のまちづくりを目指すものです。

図1 ちばレポの将来像



まず、市民が地域に発生している課題を発見し、スマートフォンのアプリ（愛称「ちばレポ」）により、写真を撮影し、GPSによる位置情報とその課題の状況等についてレポートします。

次に、送られたレポートを行政が確認を行い、WEBサイトに公開するとともに、行政が解決すべきか、市民の力で解決することができるかの振り分けを行います。そして、両者で地域課題の解決を目指すという仕組みです。なお、今回の実証実験では、市民協働による地域課題解決は実際には行いませんでしたが、情報が可視化され、共有できることで、市民自らが解決に乗り出すことができる地域課題も見えてきました。

次に示す図2では、市民から投稿されたレポートが分野

別（「道路」、「公園」、「ごみ」、「その他」）、対応状況別（受付済、対応中、対応済）のアイコンとなって、WEBの地図上に公開されており、それぞれのアイコンをクリックすると、地域課題にアクセスでき、誰もがどこにどのような課題があり、どのような対応状況なのかが一目でわかります。

図2 ちばレポポータルサイト



©2014 Microsoft Copyright © AND © Zenrin

3) 市民協働による地域課題解決

実証実験中に行った参加者へのアンケートから、参加市民は、日頃から地域の様々な課題に関心があり、自らの力で解決したいという意識のある方が多く、社会貢献意欲が潜在化していることがわかりました。

今後、地域課題を市民の力で解決するための仕組みを整え、市民協働によるまちづくりを目指していきます。

4) 道路維持管理一元化を目指して

道路に関しては、電話やメールなどにより年間約13,000件の要望が市土木事務所へ寄せられています。また、実証実験中のレポートは、道路分野が全体の約7割を占めており、市民の道路への関心の高さがうかがえます。そこで、本格運用時には、道路分野では、市民から寄せられるすべての情報と、修繕等に要した資材情報を合わせ、一元管理することより道路維持に関する業務改善と業務効率の向上を図ることとしています。

5) ちばレポの今後

今回の実証実験では、「ちばレポ」というアプリを使うことは市民と行政との協働による地域課題解決の仕組みとして有効であることを確認できたことから、平成26年9月の本格運用開始を目途に、4月からジャパンスタードを目指したシステムの開発に取り掛かります。今後のちばレポの展開にどうぞご期待ください。